

講演

離島での在宅医療 ドクターゴン診療所の取り組み

著者 | 泰川 恵吾 [医療法人鳥伝白川会 ドクターゴン診療所 理事長]

当医療法人では、沖縄県の離島である宮古群島と、神奈川県の鎌倉市で在宅療養支援診療所を運営している。

宮古群島は、大小8つの離島から成り、うち4島は宮古本島と橋で繋がっており、5島には医療機関が無い。宮古本島には、ベッド数約300床の県立病院と他2病院、28診療所があるが、ほとんどが市内中心部に集中している。島内には手術が可能な脳神経外科医が1名いるが、心臓血管外科医はいない。産業は少なく、サトウキビ等を中心とする農家が多い。個人所得は我が国の平均水準よりかなり少ない。

我々は、宮古本島で2診療所と1複合型施設を開設し、2つの診療所から16km以内にある5離島全域を対象に在宅医療を提供している。

本院であるドクターゴン診療所は、かつて無医村であった宮古島南岸の上野村に開設し、在宅医療を行っている。宮古島全域が公共交通機関に乏しく、上野村から市内までは道路で約12km以上の距離があるため、高齢者が市内の医療機関に通院することは極めて困難であった。1周約100kmの宮古島には多数の過疎化した集落が広範囲に存在するが、人口の少ない地域に医療機関は存在しない。橋が繋がっていない人口28人の大神島は海路を経由するが、何かしらの障害を持った患者が船舶等を利用して通院するのは非常に困難であった。我々は、陸路の自動車だけでなく、緊急時に使用可能な自前の船舶も所有している。

患者に急変があった場合、陸路であれば救急車に対応するが、ドクターヘリは沖縄本島に2機あるだけで、南西約330kmの海を隔てた宮古群島までは飛行できない。更に南西にあり、医療施設に乏しい石垣島、波照間島、与那国島などへも飛行できない。

万が一の場合には自衛隊や海上保安庁が対応するが、長距離海上搬送のリスクは大きく、平成2年には固定翼機が墜落し、搭乗していた乗務員と医師を失った経験がある。こうした地域に提供すべきは極力自己完結が可能なレベルの在宅医療である。

九州厚生局は現状で離島僻地であっても半径16kmを超える往診、訪問診療を許可しないため、我々は宮古島北端から15kmの位置に分院を開設している。

宮古島には介護施設が多く、看取りの環境は比較的整っている。古来の風習から、家で最後を迎えることに拘りを

持つ高齢者は多い。しかし、医療依存度の高い患者についてはケアに難渋する事が多く、末期状態になってから自宅や施設から急性期病院に入院となる事も多い。宮古群島にホスピスは存在しない。文化的な問題もあるが、算定点数が高くなる診療施設は、地域全体の経済状況から鑑みて、開設、運営とも極めて困難と考えられる。そこで、当医療法人では小規模多機能に訪問看護サービスを付加した「地域密着型複合型サービス」を開設し、医療依存度の高い患者の在宅療養を支援している。

地域医療は、地域の歴史や文化に応じた形で提供されるべきである。都市部とは全く違う離島の文化や生活様式に寄り添う在宅医療が必要である。

宮古群島で、外科手技を含む総合診療を実践する我々の在宅医療について紹介する。

略歴

昭和38年7月25日 宮古平良 生まれ
 平成元年杏林大学卒業後、東京女子医科大学第二外科入局
 平成4年 東京女子医科大学救命救急センター配属
 平成6年 同大学病院救命救急センター集中治療室 チーフ
 平成7年 茨城牛久愛和病院 救急医療科医長
 平成8年 東京消防庁幡ヶ谷消防学校
 救急救命士専任講師兼任
 平成9年 沖縄県宮古島で伊志嶺医院 開設
 平成12年 ドクターゴン診療所開設
 平成16年 鎌倉常盤クリニック開設
 平成22年 ドクターゴン鎌倉診療所開設
 平成13年から平成19年まで、
 東京女子医科大学救急医学教室非常勤講師
 平成18年から東海大学看護学部非常勤講師
 現在、医療法人 鳥伝白川会 ドクターゴン診療所 ドクターゴン
 鎌倉診療所ドクターゴン四島診療所 複合型サービスゴン 理
 事長
 日本在宅医学会認定専門医
 日本外科学会認定医